壊れゆく“若者たち”

File.73 デジタル症候群 ～Zoomの情報流出にみる今後の傾向

文 石井 通明 text by Michiaki Ishii

新型コロナウイルス（COVID-19）の話題が毎日溢れかえる中、確実に社会を変えたと言えるのがインターネットを利用したテレワークという在宅環境での仕事スタイルです。実施している多くの人が窮屈な環境を感じつつも、一方で通勤時間の無意味さと家族との時間の大切さを感じているそうです。ネット環境があれば、パソコンでもスマホでも世界中の人と会議ができるこの仕組みは、アフターコロナを迎えても残り続け、都市部の密集した生活環境から脱し、田舎暮らしでも同等の仕事ができるきっかけになると言われています。

このことの大きな助けになっているのが、Zoomのようなビデオコミュニケーションアプリの存在だと言えるでしょう。利用したことがある人は分かるかと思いますが、他のビデオアプリよりも体感的に使い勝手が良いという点が挙げられます。そんな世の中を一世風靡したZoomですが、利用者が爆発的に増えた先日（4月中旬）、53万件にも及ぶアカウント情報がハッカーたちによって不正に販売されていたことが発覚しました。被害者の多くは以前から利用している自分のIDとPWをそのまま使っていたようで、いつのまにかIDとPWを傍受されるという事態が起きていたようです。パスワードの使い回しは、セキュリティ上の重大な脅威となっていますが、多くの人が自分のパスワード設定を煩わしく感じ、しっかりとした対策を取っていません。

そして忘れてはならないのが、最近の情報傍受は私たちの想像を絶するほど、巧妙にかつ気付かれないように行われていることです。Zoomにアカウントを開設する際には、使い回しのパスワードを利用しないようにしてください。これを機会に、今後、ご自身のパスワード管理を見直してみることをお勧めします。

この在宅ワーク化を機に、世界のネット化は急激に加速します。それは、つまりセキュリティに守られた会社での利用ではなく、自分で自分の身を守らなければいけないことになります。この危機意識を強く持たないと、ご自身の資産を奪われかねない事態に陥ることでしょう。

Profile
東京都大田区生まれ。
英国ウェールズ大学MBA（経営管理修士）。
日本交渉学会会員。ハーバード流交渉学・消費者行動心理学・コンフリクトマネジメントを研究。日本コールセンター協会情報調査委員。
㈱グッドクロス 取締役COO
長年コールセンター運営に携わり、人と人のコミュニケーションについての研究を進めている。思いやりのコールセンターを展開。
beecall 03-6420-2088
[http://www.bcall.jp]

「最高の結果を得る『戦略的』交渉の全技術」
日本実業出版社
定価：1500円（税別）